

令和

4 年度 事務事業評価シート

事務事業の概要・計画 (PLAN)

事務事業名	三世代交流拠点施設運営事業	会計名称 予算科目	一般会計 3 款 1 項 10 目	事業番号	1364	担当課 所属長名	長寿介護課 野間美幸
事業評価の有無	■ 評価対象事業 <input checked="" type="checkbox"/> 評価対象外事業 (事業の概要・結果のみ)					担当責任者名	池田誠
法令根拠等	伊予市介護予防三世代交流拠点施設条例					実施期間 【開始】	令和／平成 17 年度
総合計画での位置付け	健康福祉都市の創造 健やかで生きがいの持てる高齢者福祉の実践					【終了】	令和 年度(予定) ■ 設定なし
総合計画における本事業の役割	幅広い年齢層の地域コミュニティの場を提供し、利用促進を図る。						
事業の対象	市内在住の青少年、壮年及び高齢者	事業の目的	市内在住の青少年、壮年、高齢者の三世代交流を図り、健康増進及び介護予防を支援するとともに地域コミュニティの増進に資する。				
事業の内容 (整備内容)	指定管理協定により、みたに、上吾川、唐川の3館の管理運営を地元で組織する運営協議会に委託し、施設の維持管理や目的達成のための事業を行う。	昨年度の課題に対する具体的な改善策	昨年度までの利用控えから各施設とも利用者が増加した。				

事業活動の内容・成果 (DO)

事業費及び財源内訳(千円)							事業活動の実績(活動指標)								
項目	前年度決算	当初予算額	補正予算額	継続費その他	翌年度繰越	決算額	項目	単位	前年度実績	4年度予定	9月末の実績	4年度実績			
直 接 事 業 費	3,756	4,097	1,661	0	0	5,437	みたにふれあい館利用延人数(開館日数)	人(日)	2949(148)	5200(260)	1942(123)	3945(241)			
財 源 内 訳	国庫支出金	0	0	1,661	0	1,611									
	県支出金	0	0	0	0	0									
	地 方 債	0	0	0	0	0									
	そ の 他	0	0	0	0	0									
	一 般 財 源	3,756	4,097	0	0	3,826									
職員の人工(にんく)数	0.00	0.10				0.10	上吾川ふれあい館利用延人数(開館日数)	人(日)	3671(213)	5200(260)	1444(105)	3699(257)			
1人工当たりの入件費単価	7,841	7,794				7,794									
※ 直接事業費+入件費	3,756	4,876				6,216									
主な実施主体	委託	実施形態(補助金・指定管理料・委託料等の記載欄)	指定管理料												
向こう5年間の直接事業費の推移(千円)							5 年度	6 年度	7 年度	8 年度	9 年度	5年間の合計			
							3,600	3,600	3,600	36,000	36,000	82,800			
成 果 指 標	指 標	上吾川ふれあい館の1日平均利用人数			単位	→	区分年度	前 年 度	4 年 度	5 年 度	目標	毎 年 度			
	指標設定の考え方	利用人数÷開館日数			目 標		20	20	20	20	20				
	指標で表せない効果	地域コミュニティの進展			実 績		17.2	14.4							

事務事業評価（CHECK）

新たな課題や当初の改善策に対する対応状況（今年度の途中経過）		昨年度に引き続き、必要な感染症対策を講じて運営に努めている。上半期は休館の要請を行うことなく、利用者数も回復傾向にある。									
事務事業の評価	自己判定（担当責任者）	妥当性	目的の妥当性	5 施策の目的を果たすために必要不可欠な事業である。 4 3 概ね、施策の目的に沿った事業である。 2 1 この事業では施策の目的を果たすことができない。	4	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D	A	事業成果・工夫した点	感染症対策を徹底しながら安全な施設運営を行うことができた。利用者も昨年度より増加傾向にあり、行動制限緩和後も、消毒液の設置など引き続き適切な施設運営に努めたい。		
			社会情勢等への対応	5 社会情勢等のニーズに合致する。又は、行政管理上必要な事業である。 4 3 社会情勢に概ね適合する。又は、行政管理上、概ね妥当である。 2 1 社会情勢又は行政管理事務に対応しておらず、見直しが必要である。	3						
			市の関与の妥当性	5 市が積極的に関与・実施すべき事業である。 4 3 今のところ市の関与・実施は妥当と判断できる。 2 1 市は関与しないで、民間や市民団体等に委ねるべきである。	3						
		有効性	事業の効果	5 市民生活の課題、又は行政内部の課題解決に大いに貢献している。 4 3 市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。 2 1 市民生活や行政内部の課題解決になっていない。	3	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D	A	事業の苦労した点・課題	光熱水費の高騰が今後も懸念され、指定管理料についても状況に応じて見直しを検討する必要がある。		
			成果向上の可能性	5 既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。 4 3 今後、成果の向上が期待でき、事業継続の必要がある。 2 1 目的は十分達成されており、事業継続の必要性は低い。	3						
			施策への貢献度	5 施策推進への貢献は多大である。 4 3 施策推進に向け、効果を認めることができる。 2 1 施策推進につながっていない。	4						
		効率性	手段の最適性	5 現状では最善の手段であり、他の方策を検討する必要はない。 4 3 最適な手段であるが、更に民活、他事業との統合・連携等の検討の余地がある。 2 1 活動指標の実績も上がりず、効率的な手段の見直しが必要である。	3	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D	B	事業の方向性	■ 事業継続と判断する。 □ 事業縮小と判断する □ 事業廃止と判断する (判断の理由) 高齢者施設再編方針に沿って、健康増進及び介護予防目的に沿って事業継続が必要である。		
			コスト効率	5 投入コスト以上の成果を得ており、コスト削減の余地は見当たらない。 4 3 コスト削減に向けた取り組みを実施し、それに見合う成果を得ている。 2 1 満足する成果にも達せず、まだまだ事業費・人件費の削減余地がある。	3						
			市民（受益者）負担の適正	5 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の検討の余地がある。 4 3 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の見直しが必要である。 2 1 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の見直しが必要である。	3						
	一次判定（所属長）	妥当性	目的の妥当性	5 施策の目的を果たすために必要不可欠な事業である。 4 3 概ね、施策の目的に沿った事業である。 2 1 この事業では施策の目的を果たすことができない。	4	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D	A	所属長の課題認識	■ 事業継続と判断する。 □ 事業縮小と判断する □ 事業廃止と判断する (判断の理由) 高齢者福祉施設再編方針に沿って、3か所の三世代交流拠点施設が、地元で組織する運営協議会による管理運営のメリットを生かして活性化が図られるよう期待したい。		
			社会情勢等への対応	5 社会情勢等のニーズに合致する。又は、行政管理上必要な事業である。 4 3 社会情勢に概ね適合する。又は、行政管理上、概ね妥当である。 2 1 社会情勢又は行政管理事務に対応しておらず、見直しが必要である。	3						
			市の関与の妥当性	5 市が積極的に関与・実施すべき事業である。 4 3 今のところ市の関与・実施は妥当と判断できる。 2 1 市は関与しないで、民間や市民団体等に委ねるべきである。	3						
		有効性	事業の効果	5 市民生活や行政内部の課題解決に大いに貢献している。 4 3 市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。 2 1 市民生活や行政内部の課題解決になっていない。	3	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D	A	事業の方向性			
			成果向上の可能性	5 既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。 4 3 今後、成果の向上が期待でき、事業継続の必要がある。 2 1 目的は十分達成されており、事業継続の必要性は低い。	3						
			施策への貢献度	5 施策推進への貢献は多大である。 4 3 施策推進に向け、効果を認めることができる。 2 1 施策推進につながっていない。	4						
		効率性	手段の最適性	5 現状では最善の手段であり、他の方策を検討する必要はない。 4 3 最適な手段であるが、更に民活、他事業との統合・連携等の検討の余地がある。 2 1 活動指標の実績も上がりず、効率的な手段の見直しが必要である。	3	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D	B	事業の方向性			
			コスト効率	5 投入コスト以上の成果を得ており、コスト削減の余地は見当たらない。 4 3 コスト削減に向けた取り組みを実施し、それに見合う成果を得ている。 2 1 満足する成果にも達せず、まだまだ事業費・人件費の削減余地がある。	3						
			市民（受益者）負担の適正	5 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の検討の余地がある。 4 3 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の見直しが必要である。 2 1 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の見直しが必要である。	3						

施 策 を 踏 ま え た 判 断	二 次 判 定	<input type="checkbox"/> 一次判定結果は以下の点について良好と評価し、更なる事業推進を求める。 <input type="checkbox"/> 一次判定結果のとおり事業継続と判断する。 <input checked="" type="checkbox"/> 一次判定結果のとおり事業継続と判断するが、以下の課題を新たに追加する。 <p>「高齢者福祉施設再編方針」により再編された各施設は地元運営協議会が地域性に配慮した特色ある運営を行っているが、ウイズコロナ期の利用状況を見極め、事業運営と高齢者の健康増進と介護予防の観点からの新たな手法を検討していく。</p> <input type="checkbox"/> 一次判定は以下の点について外部評価が必要と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。 <input type="checkbox"/> 一次判定結果のとおり事業縮小と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。 <input type="checkbox"/> 一次判定結果のとおり事業廃止と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。 <input type="checkbox"/> 既に事業廃止が決定していることから、廃止に向けた手続を行う。		指摘事項を踏まえ、事務改善、事業推進に努め、今年度の事務事業評価シートに反映させること。

行政評価委員会の答申	外 部 評 価	答申の内容
------------	------------------	-------

今後の方針性（ACTION）

の経 最 終 者 判 会 断 議	事業の方向性 <table border="1" style="width: 100px; margin-bottom: 10px;"> <tr><td><input type="checkbox"/></td><td>さらに重点化する。</td></tr> <tr><td><input type="checkbox"/></td><td>現状のまま継続する。</td></tr> <tr><td><input checked="" type="checkbox"/></td><td>見直しの上、継続する。</td></tr> <tr><td><input type="checkbox"/></td><td>事業の縮小を検討する。 事業を縮小する。</td></tr> <tr><td><input type="checkbox"/></td><td>事業の休止、廃止を検討する。 事業を休止、廃止する。</td></tr> </table> コメント欄 <div style="border: 1px solid black; height: 100px; width: 100%;"></div>	<input type="checkbox"/>	さらに重点化する。	<input type="checkbox"/>	現状のまま継続する。	<input checked="" type="checkbox"/>	見直しの上、継続する。	<input type="checkbox"/>	事業の縮小を検討する。 事業を縮小する。	<input type="checkbox"/>	事業の休止、廃止を検討する。 事業を休止、廃止する。
		<input type="checkbox"/>	さらに重点化する。								
		<input type="checkbox"/>	現状のまま継続する。								
		<input checked="" type="checkbox"/>	見直しの上、継続する。								
		<input type="checkbox"/>	事業の縮小を検討する。 事業を縮小する。								
		<input type="checkbox"/>	事業の休止、廃止を検討する。 事業を休止、廃止する。								